

あの世の探検—地獄の十王勢ぞろい—

Exploring the World Beyond: The Ten Kings of Hell

会 期:2023年8月11日(金・祝)～9月24日(日)

会 場:静嘉堂@丸の内

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1 明治生命館 1 階

開館時間:10:00～17:00 ※金曜は 18:00 閉館。

入館は閉館時間の 30 分前まで

休 館 日:月曜日、9月19日(火) ※9月18日(月・祝)は開館

主 催:静嘉堂文庫美術館(公益財団法人静嘉堂)

ホームページ: <https://www.seikado.or.jp/>

twitter:@seikadomuseum

お問 合 せ: 電話 050-5541-8600(ハローダイヤル)

入 館 料:一般 1,500 円 大高生 1,000 円 中学生以下無料

(広報用画像 1)

重要美術品

「十王図・二使者図」
のうち

「第十 五道転輪王」
元～明時代 14 世紀

あの世は、どんな世界なのだろう。

人が現世を離れ、冥界に行くと、閻魔大王など 10 人の大王(地獄の十王)がいて、罪業を裁くと考えられています。そのため、亡くなった方の縁者が十王を供養することによって、その極楽往生を祈ってきました。静嘉堂文庫美術館所蔵の「十王図・二使者図」(中国・元～明時代)は、圧倒的なエネルギーに満ちた作品で、地獄に出向いて救済をする「地藏菩薩十王図」(高麗時代)と一具で伝来してきた名品です。

本展では静嘉堂文庫美術館の所蔵品の核の一つである仏教美術、中でも、1999 年の『仏教の美術』で初公開して以来、揃って展観する機会がなかった、「十王図・二使者図」及び「地藏菩薩十王図」全 13 幅を一堂に展観することで、往時の姿をしるがります。

あわせて、近年修復をおえた、日本、中国の仏教絵画などを修理後初公開するほか、江戸絵画の名品、円山応挙筆「江口君図」を、重要文化財「普賢菩薩像」、重要文化財「西行物語」と共に展示することで、「江口君図」の謎に迫ります。

国宝 1 件、重文 2 件、重美 5 件、豪華メンバーでお待ちしています。



3つのみどころ

① 「十王図・二使者図」「地蔵菩薩十王図」全 13 幅を一堂に展観する初の試み！
同一空間での展示はなんと 24 年ぶり！ 圧巻の空間をぜひ体験してください！



② 近年注目の高まるユニークな作品を堪能！ 女人成仏も描く「妙法蓮華経変相図」と
子どもを守る「十二霊獣図巻」の全場面展示で、人々を救済する仏教美術の世界へ (場面替えあり)



左：(広報用画像 2-1)
「妙法蓮華経変相図」(部分)
南宋時代
12 世紀前半～13 世紀後半



右：(広報用画像 2-2)
「妙法蓮華経変相図」(部分)
南宋時代
12 世紀前半～13 世紀後半

法華経で説かれた内容を素朴な筆遣いで描いています。観音をはじめ、「龍女成仏」「渡海文殊」などと、菩薩が様々な姿を変える様子は日本の説話画にも影響を与えました。

←宝珠を持っているのが龍女(りゅうにょ)。八歳の聡明な女の子が法華経の教えによって仏になりました！



中国の 12 の霊獣を描いた巻物で、室町時代に写したと考えられています。邪気を払うため、実際に、子ども部屋の屏風に貼られて使われていたことがわかっています！

(広報用画像 3)
「十二霊獣図巻」(部分) 室町時代 16 世紀

③ 円山応挙筆「江口君図」
VS 重要文化財「普賢菩薩像」で、
江口君図の謎に迫る！

円山応挙筆「江口君図」は、応挙以前の、肉筆浮世絵の美人画や、応挙以降の円山四条派の美人画のレパートリーの一つ。白象に乗る遊女を普賢菩薩に見立てた、いわば普賢菩薩の見立絵(やつし絵)ですが、応挙のそれは、鎌倉仏画の名品、重要文化財「普賢菩薩像」の品格に負けない、仏画のような美しさと気品を備えています。応挙の写実とは何か！両者を比較してその謎に迫ります。



(広報用画像 4) 重要文化財「普賢菩薩像」鎌倉時代 13 世紀



(広報用画像 5) 重要美術品 円山応挙筆「江口君図」寛政 6 年 (1794)

第一章 極楽浄土への招待

第一節 中国・朝鮮半島の作品より

第二節 日本の仏画―鎌倉時代から明治まで

河鍋暁斎筆「地獄極楽めぐり図」特別出品！



(広報用画像6) 河鍋暁斎
「地獄極楽めぐり図」のうち「田鶴の臨終」

静嘉堂の創設者・岩崎彌之助は、明治時代、廃仏毀釈や旧大名家の没落により、東洋の優れた文化財が海外に流出してゆくことを憂い、仏教美術も蒐集しました。必ずしも系統的ではありませんが、仏画は質・量ともに当館所蔵品の一つの核であることは間違いありません。

本章では、中国・南宋から元時代、朝鮮半島では高麗時代、日本では鎌倉時代から南北朝時代という、13～14世紀の東アジアにおける、釈迦如来、阿弥陀如来、そして観音菩薩らにより、極楽浄土をご案内します。



(広報用画像7)
「苦行釈迦図」
元時代 13～14世紀



(広報用画像8)
「当麻曼荼羅」
鎌倉時代 14世紀
(修理後初公開)



(広報用画像9)
「阿弥陀来迎図」
鎌倉時代 13～14世紀
(修理後初公開)



(広報用画像10)
重要美術品「如意輪観音像」
南北朝時代 14世紀

第二章 地獄の十王ここにあり

「十王図」は、中国の民間信仰と仏教信仰との混合から生まれた、《預修十往生七経》などの偽経を典とするもので、冥界で生前の罪を裁くといわれる10人の王(十王)を描いた図です。中国では宋時代以後、日本でも鎌倉時代以後、浄土教信仰の盛行とともに描かれました。

本作は、大名家に伝来し、地藏菩薩十王図と十王図二使者図がセットとなった13世紀の名品です。地獄に向いて亡者を救済する地藏菩薩と、裁きをする十王、十王の足元にはそれぞれ細密かつエネルギーに満ちた色彩と形で、裁きの様子や地獄の獄卒らが描かれます。一幅ずつ探検してみましょう。

初公開となる兜跋毘沙門天立像も必見。



(広報用画像11)
重要美術品
「地藏菩薩十王図」
高麗時代 14世紀



(広報用画像12)
重要美術品
「十王図・二使者図」
のうち
「第六 変成王」
元～明時代 14世紀



(広報用画像13)
重要美術品
「十王図・二使者図」
のうち
「第五 閻羅王」
元～明時代 14世紀

第三章 昇天した遊女—円山応挙筆「江口君図」の謎に迫る

円山応挙筆「江口君図」は、大坂・江口の遊女の亡霊が、西行と歌を詠み交わし、普賢菩薩と化したという謡曲「江口」の話に取材した作品です。白象に乗る遊女を普賢菩薩に見立てた、いわば普賢菩薩の見立絵（やつし絵）でもあります。幽霊画の名手ともいわれた応挙の写実の真骨頂は、あえて江口君を生身の美人として描かず、菩薩としての優美な姿に昇華させたところにあるといえるでしょう。

—出展作品—

重要文化財「普賢菩薩像」

円山応挙筆「江口君図」、伝円山応挙筆「幽霊図」

重要文化財「西行物語」

曜変天目も特別展示！



(広報用画像 15)
 国宝「建窯 曜変天目
 (稲葉天目)」
 南宋時代 12～13 世紀



ホワイエ展示
 (撮影 OK)

(広報用画像 14)
 「金銅観世音菩薩立像」
 北魏 正光 2 年 (521)

河鍋暁斎《地獄極楽めぐり図》の原寸の 80%縮小複製
 『とことん鑑賞 地獄極楽めぐり図』
 好評発売中！ 税込み価格 5000 円ぽっきり

全 40 図を収めた画帖と別冊の解説本が、
 柴田是真作の箱を模した帙（カバー）に入った豪華本。
 暁斎の代表作をぜひ、手に取って頁を繰ってみれば、
 あの世への楽しい旅路を堪能できます！



【報道に関するお問い合わせは】

◆静嘉堂文庫美術館 広報事務局（共同 PR 内 担当：三井）
 ※在宅勤務も増えているため、メールでいただけると助かります。

E-mail : seikado-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382
 〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F

◆静嘉堂文庫美術館 E-mail:press@seikado.or.jp TEL. 080-1708-7717 (広報担当：大森)